

私たちの考える飯南のミライ

「飯南のミライを考えているのは大人だけじゃない」——。中高生にまちに対する想いを聞きました。

11月30日、小中高の児童生徒がふるさと飯南町について、学んだり、研究したりしてきた成果を発表する「ふるさとシンポジウム」を開催。やまちの未来を堂々と発表しました。11月から今月上旬には、小中高のふるさと教育や課題解決型学習の発表会も開催。今日は、2人の中高生の想いを取り上げます。



横貝 倭玖さん
Yokogai Shizuku
赤来中3年

「それぞれの普通を尊重できるまち」

2年生の3学期から卒業研究を進めてきました。自分の進路と飯南町の課題を掛け合わせた研究です。テーマは「手話で福祉の輪を広げよう!」です。

私は将来、「耳の不自由な方を助けることのできる保健師になる」ことが目標。その目標と飯南町の福祉などの課題を考えて、このテーマにしました。もともとドラマを観て、手話に興味を持ったこともあり、「手話ができる人はカッコいい」という憧れがあったんです。でも、研究を進めていく中

で、「手話はコミュニケーションの一つ」と気づきました。志々公民館まつりや赤来中の発表会でも手話を披露しましたが、まだまだ恥ずかしさもあり、上手くできません。手話が必要としている人のためにもっと頑張りたいです。高校進学後も、JRC部に入学して、手話や福祉の活動をしたいと考えています。

研究前から、飯南町は素敵なまちだと思っていました。福祉を中心に研究を進め、飯南町の未来を考えたいんです。このまちにも、耳が聞こえないなどの障がいがある方も、そうでない方も生活されているので、飯南町が「それぞれがそれぞれの普通を尊重していけるまち」になればうれしいです。

将来は保健師として、県外で働きたい気持ちもありますが、飯南町がそんなまちになるために、飯南町で働きたいとも思っています。私も貢献したいです。



大野 友希さん
Ohno Tomoki
飯南高3年

「できることを自分なりに」

普段は雲南市に住んでいて、高校にバス通学しているので、このまちの魅力を知る機会は少なかったです。それでも、半夏まつりに行ったり、リングゴや蕎麦などを食べるりはしてきました。

生命地域学の授業で、まちのことを考え、まちの皆さんを笑顔にするため、私含め3人で研究をしました。テーマは「飯南町の木材を使い、ペットと飼い主に喜んでもらう」です。豊かな自然が飯南町の魅力です。また、犬の散歩をしている方をよく見か

けていたことから、身近にある「自然」と「ペット」を組み合わせることで、飯南町に貢献できないかと考えました。研究では、頓原のラムネMILK堂の裏にあるドッグランに、飯南町の木材(廃材)を活用したドッグウォークを設置しました。町民の皆さんに活用していただければうれしいです。

実は、この研究を進めるまで地域の皆さんと関わることも、まちについて真剣に考えることもなかったんです。でも、町外に住んでいる自分ができることを考えて、研究を進める中で、「人と関わることの大切さ」に気付くことができました。多くの皆さんのご協力と接する機会が、私自身の気付きや成長につながったと感じています。

4月からは社会人。雲南圏域で働きます。自分にできることは限られていますけど、今後も飯南町に関わって、まちのためにできることをしていきたいです。

害虫対策してみた
サツマイモの知名度上げる
地域の小学生に「本」を好きになってもらう

農業の魅力を発信
山の資源を子供たちの未来へ

木材・廃材を活用
音楽でもっと活気ある町に
移動美容室で明るい町に

「食」を絵本で広める
スマートな農業

高齢者を災害から守る
障がい者雇用を広める
スイーツでまちを元気に
手話で福祉を
子育て世代の住みやすいまち
食を通して人がつながる
年齢の壁をなくす
e-スポーツを飯南町に
アニメで作るつながり



熊本葵さん「よさこいプロジェクト」研究発表(頓原中個人研究最終発表会)



影山莉音さん「高齢者を災害から守る!」研究発表(赤来中卒業研究発表会)



高校ではグループで研究活動を実施(生命地域学研究最終発表会)



赤名小はオンラインで発表(ふるさとシンポジウム)



頓原中の原菜月さん「子育て世代が住みやすい町をめざして」研究発表(ふるさとシンポジウム)



中高生がお互いの意見を話し合い(ふるさとシンポジウム)